

出張報告

東アジアの宗教に関するワークショップ（ホーチミン）に参加  
堀内みどり

2017年12月28日、ベトナムのホーチミン市にある The Center for Religion Studies of the University of Social Sciences and Humanities (社会科学大学宗教研究センター) と大巡大学(韓国) 新宗教研究所の共催で開



① 朝の風景。モーターバイクでの通勤で道路がふさがれる。

催された東アジアの宗教に関するワークショップ（ホーチミン）に参加し、発表した。ワークショップのテーマは「The Spiritual



② 社会科学大学入口 社会科学大学入口。



③ 境内地よりカオダイ教本部正門を眺める。と題して発表した。

当日は、同時通訳（英語／ベトナム語）による発表ではあったが、それぞれの発題について、活発な意見交換があった。

翌日は、カオダイ教の本部見学ツアーが組まれ、カオダイ教海外部のスタッフが現地まで案内してくれた。カオダイ教

Beings, Cultures, and Beliefs of East Asia Countries」(東アジア諸国の霊なるもの、文化および信仰)で、主催者であるホーチミン社会科学大学宗教研究センターのセンター長の発表(ベトナムと韓国の宗教の共通点)をはじめ、6人が発表した堀内は、「A Study on Hinokishin, the Physical Manifestation of Tenrikyo Faith」(ひのきしんについて：身をもって行う天理教信仰)



④ カオダイ教本部礼拝場。

海外部の本部はカリフォルニア州(アメリカ)にあり、そこからYouTubeを通して情報発信をしているという。というのも、ベトナム国内では、いわゆる“布教”が禁じられているからだということ



⑤ 12時の礼拝風景。

とだった。現在国内に約400万人の信者がおり、国外を含めると500万人くらいの人数になるという。

カオダイ教本部があるタイニン省は、ホーチミン市内から北西に120kmほど進んだところに位置し、観光スポットになっているので、欧米人をはじめとした外国人観光客やツアー客の姿も多い。カオダイ教は



⑥ 偶然出会ったカオダイ教の葬列。本部正門前。

1926年に2人の教祖によって始められ、タイニン省では、人口の7割近くがこのカオダイ教に属しているとも言われている。メコンデルタ地方やホーチミン、また、インドシナ戦争の時に国外へ流出していった人々の移住先でも信者がいるということだった。仏教、キリスト教、イスラム教に加え、儒教と道教を合わせた計5つの宗教を模範とした混合宗教とされる。インドシナ戦争中には独自の軍隊を持っていて、戦争から避難する人にとっては駆け込み寺としても機能していたといわれる。

一つ目のマークがカオダイ教のシンボルで、信者の人の服や帽子などにもその意匠がついていることがある。本部礼拝堂は細長い構造になっていて、礼拝対象に向かって幅広い階段を登っていくようにして、一つ目の付いた地球のようなものがある。毎日4



⑦ 一つ目の付いた地球。

回の礼拝があり、今回は12時の礼拝を見学することになった。階級に従って列を作り、また、男女が左右に分かれて参拝する。着ている服装の色で階級が分かる

とのこと。写真の奥が祭壇、右が男性、左が女性。女性は一様に白色であったが、男性は、黄色、赤色などで、帽子を被っている。本部の食堂で供された昼食はいわゆる精進料理のようなものであった。一つ目は『天眼』と呼ばれ心臓に近い左目だという。左目は心と繋がっているとされる。天眼の意味は宇宙の原理で、人のすることは見抜き見通しだという。宇宙から見下ろしている。